

発行日 2007年5月15日
 発行： 盲人情報文化センター録音製作係
 〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1丁目東3番23号道頓堀千島ビル
 電話 06-6211-0910 (録音製作)

利用者の立場で録音図書を考える

久保 洋子

5月12日の交流会では100人あまりの録音ボランティアが初めて一堂に会することができました。いつも原本と首っ引きで録音図書製作に励んでいらっしゃる皆様に一度利用者と同じように原本なしで録音図書を読む機会をもっていただきたいと考えて短い時間ですが二つの作品を聞いていただきました。

録音図書製作では「原本通りに読む」ということが必要絶対条件です。でもこれは書かれた通りに読めばいいということではありません。字を見ればわかるけれど音にすると伝わらない同音異義語なども含めて原本の内容を正しく伝える、これが音声訳です。

著者の文章はあくまでその通り読み、音にするとわからない所には、原本の内容を正しく伝える、出来るだけ簡潔な補足をする、そうすることで原本を尊重しつつ内容も正しく伝えることができると思います。補足の仕方は原本を見ることのできない利用者の立場に立って考えてみるのが大切です。

日常生活の中で例えば電話などで相手に何

かの文章を読んで聞いてもらう時などには無意識に補足したり或いは、相手からわからない箇所を指摘されたりすることもあります。電話の時には原本通りなどと考えているわけではありませんが、その通り読んで伝わらないという意味では全く同じことです。

対面朗読の経験をお持ちの方もたくさんいらっしゃると思いますが、これもどんな時に補足が必要かを経験できるいい機会です。

電話や対面ではその個人のその本に関する知識レベルによって質問の内容が違ってきます。蔵書製作ではそのレベルを広辞苑・大辞林クラスの国語辞典とすることになっています。

漢字や図・表など音声訳者の補足が必要なことは様々です。又、()などの記号は時に適当な言葉に置き換えることが必要なこともあります。

朗読技術も含めて、どういう本がきき易いよくわかる録音図書が常に利用者の立場に立って考えたいと思っています。

6月

4日(月) 『第1期音声訳初心者講習会』 最終回
1時～3時

12日(火) 『マトリョーシカ』 定例勉強会 10時～12時

8日(金) 『橋本勝利のフォロアップ講座』
1時～3時

13日(水) 『橋本勝利のフォロアップ講座』
1時～3時

20日(水) 『Mの会』 (音声訳のマニュアル検討会)
1時～3時

20日(水) 『はなみずき』 定例勉強会 1時半～3時半

16日(水) 『わかば』 定例勉強会 10時～12時

28日(木) 『二十四の瞳』 定例勉強会 10時～12時

スタジオ曜日別定例勉強会

『月曜チーム』 未定

『火曜チーム』 26日(月)

『水曜チーム』 27日(水)

『木曜チーム』 28日(木)

『金曜チーム』 15日(金)

『土曜チーム』 23日(土)

『専門図書音声訳チーム』 定例勉強会
奇数月 『理数チーム』 今月は休み

9日(土) 『古典チーム』 午後1時～3時

15日(金) 『東洋医学チーム』 3時～5時

23日(土) 『パソコンチーム』 1時半～4時

22日(金) 『英語チーム』 10時半～3時

ボランティア研修会（勉強会）&交流会の報告

～ 録音製作係、はじめての試みに100名を超える参加者 ～



録音製作に係るボランティアを対象にした、研修会及び交流会を5月12日（土）に行いました。

今回の行事は、はじめての試みでしたが、午前中の研修会には約120人、午後の交流会へは、半分の約60人の方にご参加いただき、多くの方と多くの情報を共有しながら有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

午前中の研修会では、今年度から新しく取り組む録音製作システム「ウェブスタジオ・なにわ」の概要説明を行いました。実演ができなかったのが残念でしたが、このインターネットを利用したシステムは、できる環境の方から少しずつ進めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

その他にも、録音製作係の今年度の方針や新しい録音専用機（シナノケンシ）の紹介と説明を行いました。

勉強会 テーマ「聴いて分かる図書とは…」

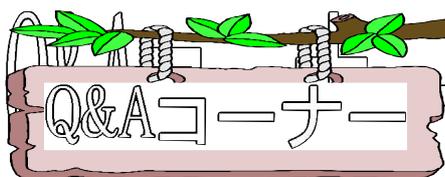
もうひとつ、午前中には一般的な音訳講習とはちがう形で「聴いて分かる図書」をテーマに勉強会を行いました。参加ボランティアの方には、本を見ずに音だけを何通りか聴いてもらい、自分なりの評価（気づき）と”音声訳とは”について考えてもらえる体験になったのではないかと思います。

午後からは、午前中とは打って変わり、楽しく自己紹介や即席チームによるクイズ大会で大盛り上がり!!

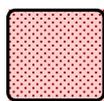
クイズ大会は、ボランティアの方が日頃一生懸命調べている固有名詞、難読語や日本ライトハウスにちなんだクイズを題材に行いましたが、参加ボランティアさんの幅広い知識にびっくりでした。

最期に、準備のための実行委員会、当日の受け持ちなど、ボランティアの実行委員の方には多大なご協力をいただき、ありがとうございました。このような機会を毎年実施していきたいと考えていますので、是非交流会のほうもたくさんの方にご参加いただけるようお願いいたします。（林田）





「デイジー図書凡例」でコメントする内容はどんなケースですか。また、どこまでことわったらいいのか迷いますが、何か基準がありますか



「デイジー図書凡例」でことわるコメントは、小説などでは「この図書の階層はレベルまであります。」といったことがほとんどになりますが、それ以外の図書となると本の作りは様々ですので、本によってはいろいろとコメントするケースが出てきます。

本の構成に合わせてデイジー図書でも使い勝手がいいように製作した場合は、その使い方などをことわります。コメントする場合、「デイジー図書凡例」は目次の前にコメントしますので、複雑な構成の本では説明しても何のことかわからないものもあります。どこでどのようなコメントするかは慎重に検討しましょう。目次を聞いていくとわかる場合は、目次を読んでいる時に断ったりすることもあります。また、該当の箇所でもコメントしたりします。

また、本全体からしてごく一部の例外的なケースはあまり「凡例」では断りません。

例えば、全体で写真が1, 2枚しかないものや、1つか、2つしかない図などを省略する場合など凡例では断らず、できるだけその場で断って処理するようにします。これは、利用者がこれから聞こうとしているのに全体に比べてごく些細なケースなのに最初から「 は省略」「 は省略」などと「省略」ばかりが耳に付くと利用者にはかなり違ったイメージを与えてしまいます。また、たくさん出てくる人名の内、2, 3の人名の読み方がわからないときに「調査のつかない人名は推定読みをしました」とことわると、どれが調べていて、どれが推定読みなのか利用者にはわからないので却って混乱させます。



パソコンで録音してますが、後追いで繋いだ所や、訂正したところの頭の部分にどうしても雑音が入ります。どうしてもでしょうか。無くす方法があったら教えてください。



「Recdia」でも「PRS フロ」でも、訂正の時、頭の部分に「雑音」が入るのは録音操作によるものと考えられます。つまり、録音する時にパソコンの「キー」を押しますが、その時ではなく、「キー」を離すときに出る「カチャッ」という「音」が録音されていると思われます。これ

は「キー」を早く離しすぎると、まだ声を出していないので「カチャッ」という「音」が目立ち雑音として録音されるからです。（「キー」を離すときの音はパソコンによって差はあります）

これを防ぐには、「キー」を離すタイミングを「読み始めてから」離すようにします。

2007年度 録音製作アンケートのお願い

毎年、年度初めまでに実施していましたが「録音製作係からのアンケート」ですが、今年度は遅れていましたが6月に行います。来館者には個人ボックス、自宅録音チームは定例勉強会時にお渡しいたしますのでよろしくお願い致します。盲人情報文化センターではインターネットを利用したのバーチャルスタジオ（「ウェブスタジオ・なにわ」）を今年度から立ち上げていきます。インターネットを介することで、校正作業や自宅編集作業などでの郵送の手間を省くことができるなど時間の短縮も図られます。今回のアンケートなどを元に先行できる方から順に進めていきますのでよろしくお願い致します。

初心者音訳講座 第3期受付中

「音声訳初心者講習会」の第1期はまもなく終了し、7月23日(月)より第2期がスタートします。既に、第2期の講習会も定員をオーバーしていますので締め切っております。ただ今、第3期(10月15日スタート)の受け付けを行っています。受付は先着順ですのでお早めをお願いいたします。

プライベート図書製作講習会受付中

7月25日(水)スタートの本講習会、ただ今、受付中です。7月11日(水)10時より「選考試験」があります。

申込は、電話 06-6211-0910
FAX 06-6211-1590
E-mail rec@iccb.jp

などでできます。

記入事項

氏名(フリガナ)、男女、年齢、〒、
住所、電話番号です。

実施要項は以下のURLより閲覧できます。

<http://www.iccb.jp>

録音順序にないケースの「処理の記録ノート」

録音順序で決められていないケースや録音順序にあっても、それでは対応できないケースなど、これまでと違った処理などを検討した場合、これを記録していく「ノート」を設置することにしました。場所は受付に置くことにします。

記入事項は、

日付

本のタイトル

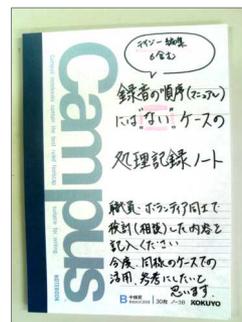
検討した内容

検討後の処理の内容

などを記入してください。

このケースを集め、「ろくおん通信」などでも取り上げていきます。

場合によっては、盲人情報文化センターの「録音の順序」に基準として反映させていただきます。



記録ノート

現在、盲人情報文化センターの「録音の順序」は「マニュアル検討委員会」(「Mの会」)でデイジー図書に見合ったものに改訂版を作成中です。